

伊佐地区における猟友会と野生動物撃退装置を連携させた新たな有害鳥獣対策の取り組み

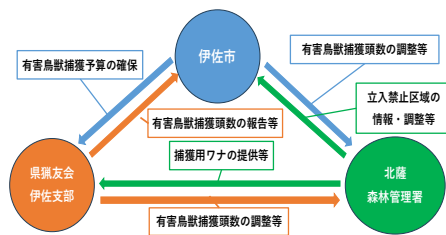
九州森林管理局 北薩森林管理署 森林技術指導官 藤川 晃久
 総括森林整備官 白内 慎哉
 森林整備官 ○東 佑太
 一般職員 ○新村 日奈子

1 課題を取り上げた背景

当署におけるシカ被害対策として、職員や委託事業による捕獲、地元市町との有害鳥獣捕獲協定に基づく捕獲を実施するとともに、再生林に伴う植栽木の保護においては獣害防止ネットや単木保護資材の設置など被害対策に取り組んでいるところです。しかし、ネット等設置時のコストが高いことや破損等の修繕など維持管理が課題となっています。こうした状況を踏まえ、「防除」と「捕獲」を効果的、効率的に行う新たな有害鳥獣被害対策を実証することとしたのでその取り組みを紹介します。

2 取組の経過

(1) 令和5年11月に当署と伊佐市、鹿児島県猟友会伊佐支部の三者で有害鳥獣捕獲協定を締結し、官民一体となって鳥獣被害の軽減を目指す関係を構築しました(図1)。



(図1：有害鳥獣捕獲協定の概要)

(2) 令和5年度の新植予定箇所において、2ha程度の検証地を2箇所(A・B)設定し、ネット等を設置せず「防除」を目的とした野生動物撃退装置「モンスターウルフ」(写真1)をそれぞれ配置しました。



(写真1：モンスターウルフ)

(3) 検証地Aの周辺には猟友会による捕獲ワナを設置し、検証地Bには周囲に末木枝条を配置するとともに、シカ等の侵入予想経路付近に職員による捕獲ワナを設置しました(図2)。

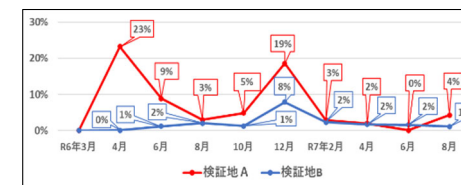


(図2：末木枝条の活用のイメージ)

(4) 検証地においては、植栽木の食害状況や成長量、自動カメラによるシカ等の動態調査、ワナによる捕獲状況等の調査を実施しました。

3 実行結果

- (1) 食害調査の結果から、検証地Aの令和6年4月が全体本数の23%と最も多く食害の被害を受けましたが、ネットを設置しなくても約7割の植栽木が被害を受けていませんでした(表1)。
- (2) 令和6年度の検証地周辺でのシカ捕獲頭数は、猟友会が110頭、職員が37頭捕獲し、連携して個体数の軽減に取り組む事ができました。
- (3) 1ha当たりの設置費用を比較した結果、検証地においては獣害防止ネット等を設置するよりも「モンスターウルフ」の設置費用及び設置後の維持管理経費について、安価で実施することができました。



(表1：植栽本数に対する被害本数割合)

4 考察

検証地では、植栽木の一部の枝葉のみが被害を受けており、シカの糞の跡が見当たらないことなど、シカの滞在時間が短いことが推測され、「モンスターウルフ」の効果が発揮されているものと考えます。また、末木枝条を配置した検証地Bが被害も少ないことから、今後も、①猟友会等と連携したワナの設置による捕獲、②「モンスターウルフ」による威嚇、③末木枝条の活用による侵入防止など「防除」と「捕獲」を効果的・効率的に行う「三本の矢」で新しい獣害対策を構築していくため、取り組みを継続していきます。